

令和5年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	77	64	45	36	4.0	11.2	8.0
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

令和5年度 東生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

〔国語〕

平均正答率は64％で、大阪府に対して4％、全国に対しては5.8％下回る結果となった。問題別に分析してみると、大阪府の正答率を上回った問題が3問あった。分野・領域上の傾向は見られず、いずれも選択式の問いであるというのが共通点であった。一方で、大阪府平均を大きく下回ったのが、文脈に即して正しい漢字を答える問い、古文で歴史的仮名遣いを直す問い、提示された資料を読んで表現の工夫について記述する問いの3問であった。単純な知識不足でもあるが、身に付けた知識・技能を正しく選択・活用する能力、文章の要旨や筆者の意図をくみ取って表現する能力に課題があることが分かる。また、ある程度の知識は身に付けているつもりがうろ覚えになっていたり、適切に活用できていなかったりと、定着にまで至っていないのが実情であると分析できる。

〔数学〕

本学年は特に関数分野の平均点を向上させることを目標に指導してきた。しかし、結果的には関数分野の平均点は10ポイント近く大阪府の平均から下がっている。一方で、図形分野とデータの活用分野に関しては、平均点から5ポイント以内の差となっている。関数分野の基本的な問いに対する正答率が15ポイント近く府の平均から下回っていることが一因であると考えられる。一年生時に学習した反比例の内容である。このときの習熟度でいえば定期テストの点を見ても多くが理解できていた内容だと思うが、復習の機会を適宜設けられていなかった。図形とデータの活用分野は、内容自体が少ないため、復習は容易であることから、差の開きが少なかったのではないかと。

〔英語〕

本校の平均正答率は36％であり、全国平均45.6％を大きく下回っていた。領域別に見ると、「聞くこと」では、正答率が全国平均を上回り、また同程度の問題もあったが、「読むこと」「書くこと」ではいずれも平均正答率を下回っていた。また、記述式、短答式の問題で、条件を満たさない回答や無回答が多かった。生徒質問紙では、「英語の勉強が好き」「英語の授業がよくわかる」と答える生徒の割合が全国平均よりも高く、英語学習への関心は高いと思われる。

【今後に向けて】

〔国語〕

漢字や語句、ことわざ・慣用句、古語や歴史的仮名遣いの直し方といった基本的な知識については、練習プリントや小テストなどで繰り返し学習し、しっかりと定着させていく。また、複数の資料を関連付けながら、根拠をもとに自分の考えを形成し、表現するといった学習を、これまで以上に積極的に授業に取り入れていきたい。

〔数学〕

授業内で、1・2年生の範囲の復習を取り入れていく。そのノウハウを学校の数学科教員と共有して、3年間を見通した授業計画に取り入れる。また、スパイラル学習を強く意識しての授業作成にも取り組む。

〔英語〕

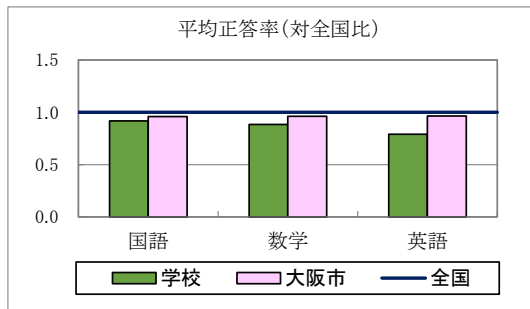
特に「書くこと」についての指導を重点的に取り組みたい。基本的な単語の習得や文法の理解を深め、短答式問題での正答率を上げる。また、普段の授業で自分の考えを英語で表現する機会を多く持つ。その際「条件を満たす回答方法」「英作文で使える表現」などにも習熟させ、論理的でまとまりのある英語の文章を書けるように、より丁寧な添削指導を行っていきたい。

令和5年度 東生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

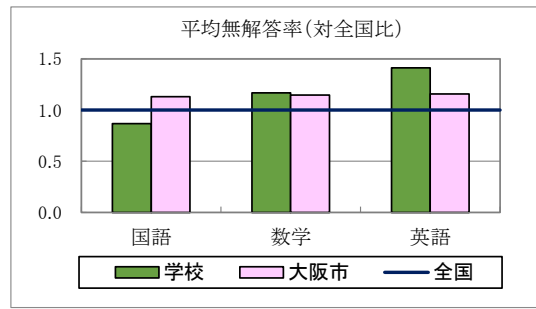
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)		
	国語	数学	英語
学校	64	45	36
大阪市	67	49	44
全国	69.8	51.0	45.6

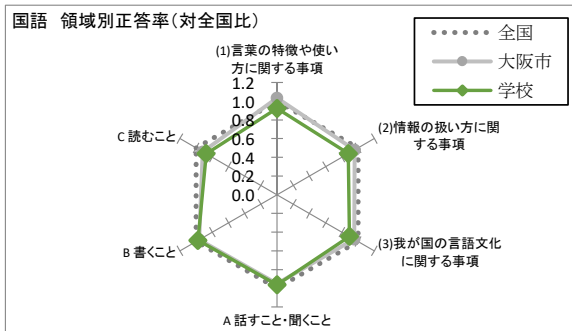
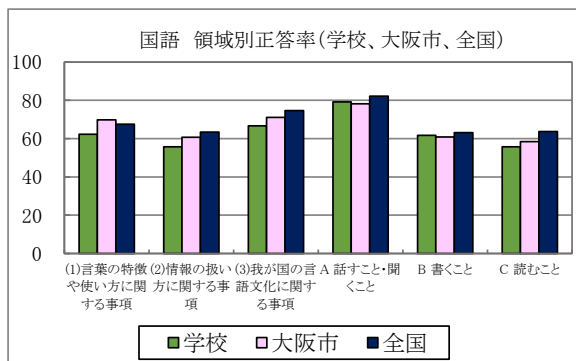


	平均無解答率(%)		
	国語	数学	英語
学校	4.0	11.2	8.0
大阪市	5.2	11.0	6.6
全国	4.6	9.6	5.7



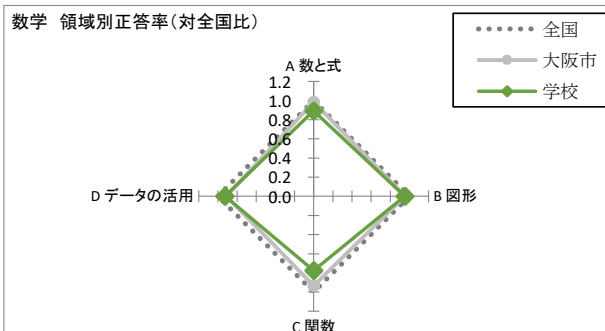
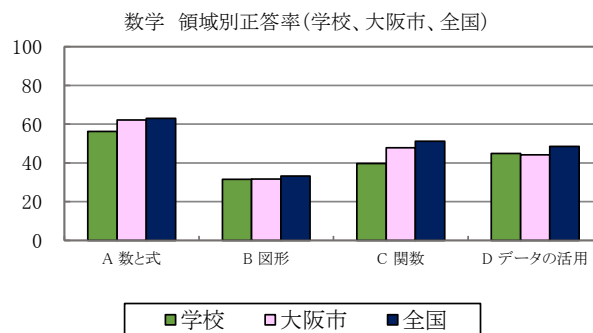
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	62.3	69.8	67.5
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	55.8	60.7	63.4
(3)我が国の言語文化に 関する事項	3	66.7	71.1	74.7
A 話すこと・聞くこと	3	79.2	78.2	82.2
B 書くこと	2	61.7	60.8	63.2
C 読むこと	4	55.8	58.5	63.7



【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	56.2	62.1	63.0
B 図形	3	31.6	31.7	33.2
C 関数	4	39.7	47.8	51.2
D データの活用	3	44.9	44.2	48.5



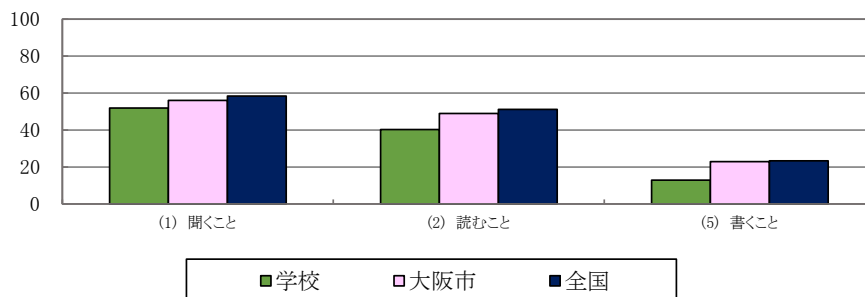
令和5年度 東生野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

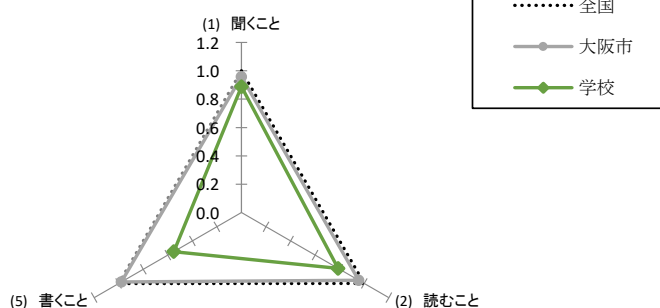
【英 語】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1) 聞くこと	6	51.9	56.0	58.4
(2) 読むこと	6	40.3	48.9	51.2
(3) 話すこと[やり取り]	0			
(4) 話すこと[発表]	0			
(5) 書くこと	5	12.9	22.9	23.4

英語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



英語 領域別正答率(対全国比)



令和5年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

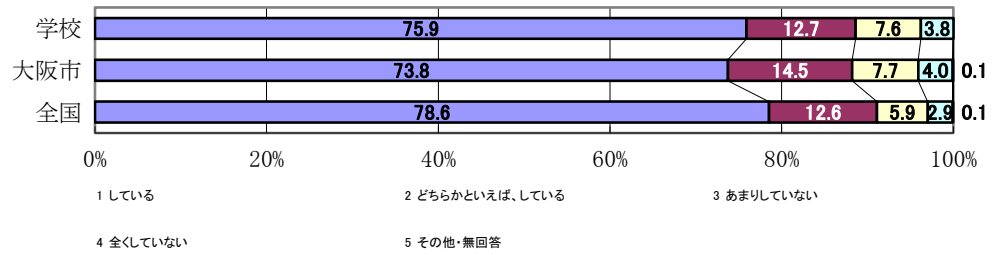
生徒質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

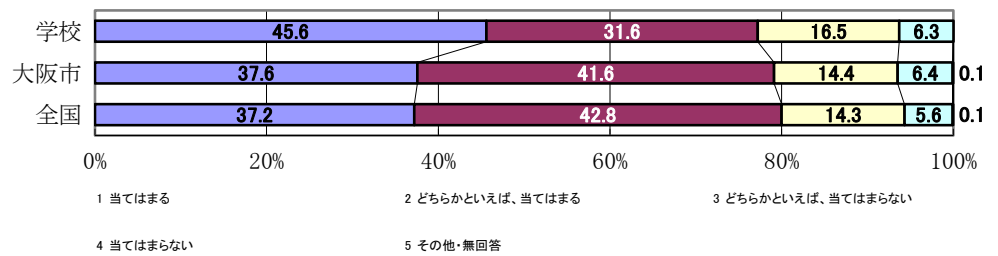
1

朝食を毎日食べている



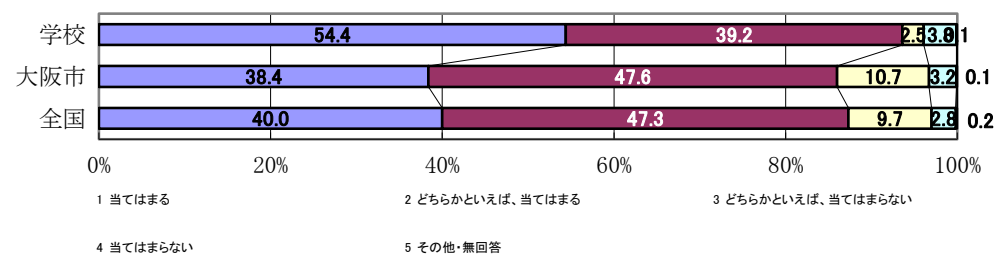
4

自分には、よいところがあると思う



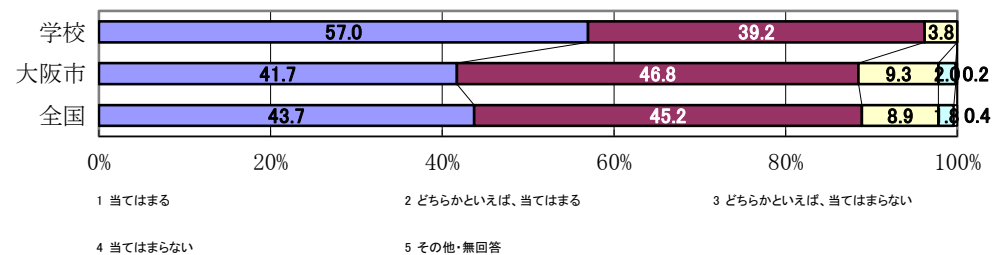
5

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



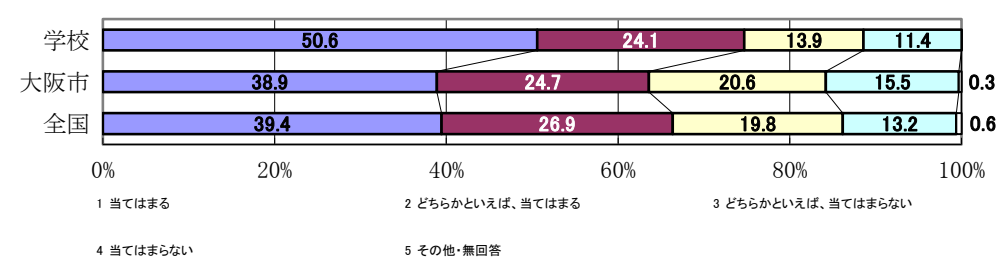
6

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う



7

将来の夢や目標をもっている



令和5年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

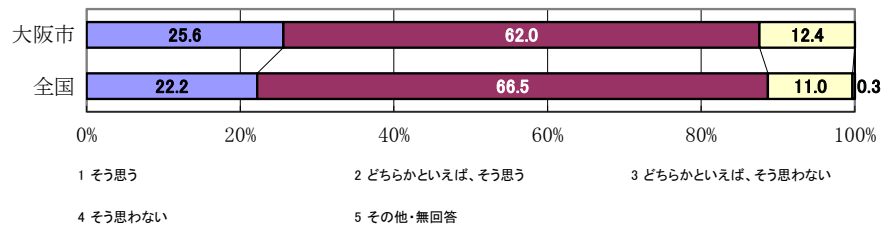
質問番号

質問事項

8

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強している

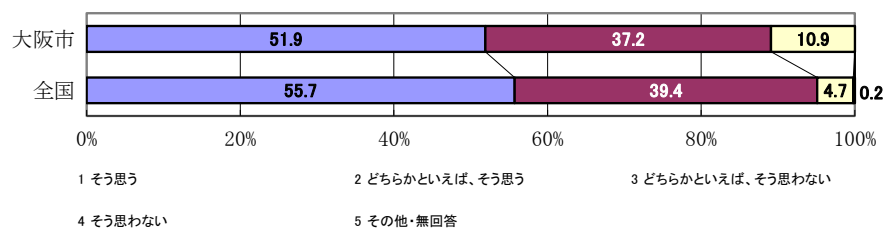
学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



9

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

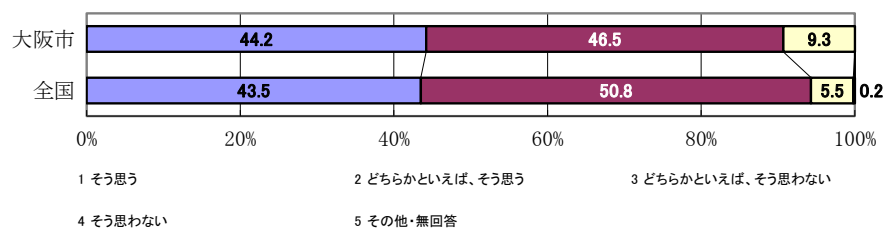
学校 「そう思う」を選択



10

調査対象学年の生徒は、礼儀正しい

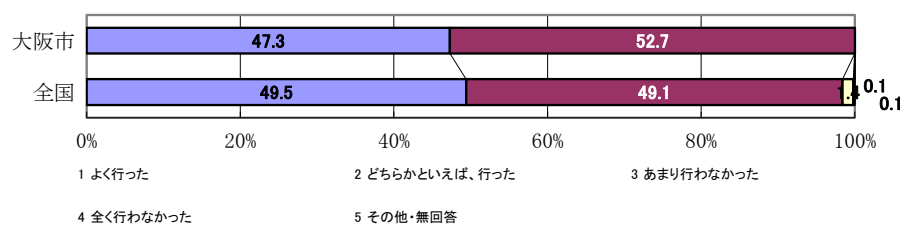
学校 「そう思う」を選択



11

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

学校 「よく行った」を選択



12

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

学校 「よく行った」を選択

